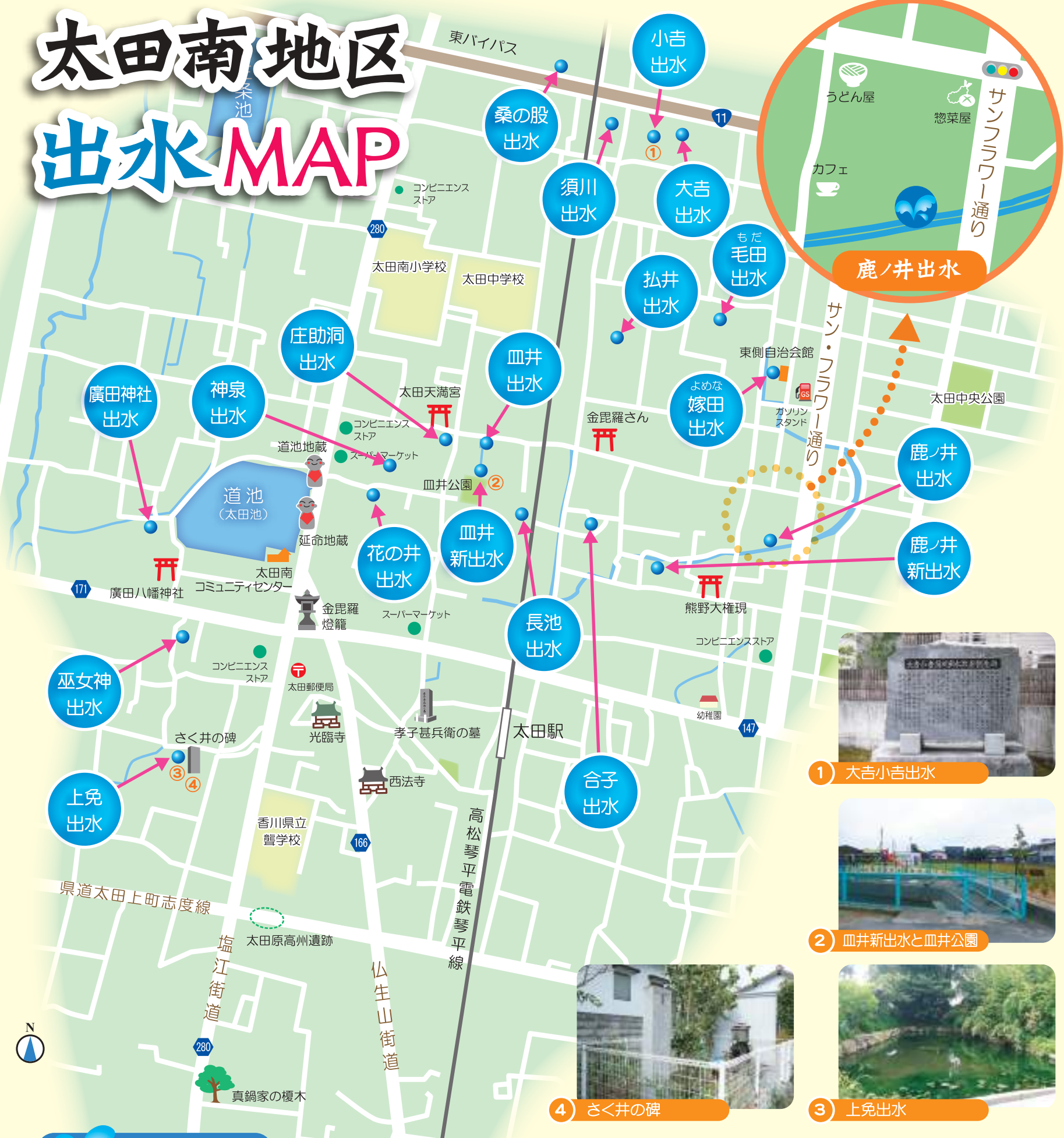


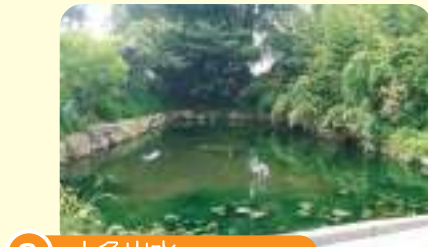
太田南地区 出水MAP



1 大吉小吉出水



2 皿井新出水と皿井公園



3 上免出水



4 さく井の碑



出水とは…

太田南地区(太田上町・下町)に伏石町・松縄町をくわえた一帯は、古代に「讃岐国香川郡大田(おほた)郷」と呼ばれ、その名の通り田の多い豊かな農業地帯であった。地区内には1本の川も流れていないのに、水はどこから手に入れていたのか? 古来、太田の人たちは出水(すい)の水を使っていたのである。

出水とは、地下水が湧き出た泉のことで、人工的に周囲を掘り下げ井桁で囲うなどして、主に農業用水として利用した。太田南地区は、香東川からの伏流水に恵まれ、江戸時代には33か所もの出水があったという。現在も、19の出水が確認できる。

中でも、鹿ノ井出水は一年中絶えることなく水が湧き、下流の伏石、太田、下多肥合わせて百町歩以上



鹿ノ井出水(1984年頃)

の田を潤してきた。太田南地区の田は「鑿井(さくい)の碑」に「太田上町太田下町ノ稻田八十余町歩八上免道池皿井川井合子ノ諸水原ヨリ灌漑」とあるように、鹿ノ井出水に次いで大きい上免出水や皿井・合子など多くの出水に頼っていた。長い歴史の中には干ばつの年も多く、各出水の水掛り農家は厳しい水利

慣行を作り、出水を大切に維持管理しながら豊かな水文化を作りあげたのである。

内場ダムの完成(1952年)や香川用水の導水(1978年)により、出水も農業用水としての役割を終えたかみえる。そのため、水田の減少や都市化の進行もあって1980年代から急速に出水の荒廃が進んだ。しかし、出水は水資源というだけでなく、地域の人たちの生活や憩いの場であり、子ども達の遊びの場であった。また、出水の荒廃は地域の環境悪化を示す指標でもある。

今、私たちは豊かな水文化を育ててきた出水の保全と活用を図り、出水を活かした地域づくりを目指そうとしている。ぜひ、この出水マップを手にとり多くの出水を探訪し、水と暮らしについて考えてほしい。